

平成 26 年度 総会・特別講演会の報告

1. はじめに

北方海域技術研究委員会では、2014年(平成26年)4月25日に平成26年度の総会・特別講演会を札幌市のかでる2・7(1070会議室)にて開催しました。今回は45名の参加を得、当会の山口幹事の司会により進められました。また、総会・特別講演会終了後に意見交換会を札幌ガーデンパレスにて開催しました。

2. 総会

総会は、当会の大塚代表の挨拶を皮切りに、清野幹事を議長として選出し、各議案についての討議を行いました。

討議事項としては、「北方海域技術研究委員会規約改定」及び「平成25年度事業・収支状況報告」、「平成26年度事業計画・予算案」、「平成26年度幹事交代(報告)」があり、各議案別に討議され、すべての議案について承認されました。

なお、本総会において幹事交代があり、幹事として河合孝治氏ならびに北川紀洋氏が新任しました。

3. 特別講演会

今回の特別講演会では、講演1「北海道におけるICT漁業に関する研究開発とその現状」と講演2「港湾・海岸構造物の長寿命化について」の2件について講演をいただきました。以下にその内容をご報告します。

(1) 講演1「北海道におけるICT漁業に関する研究開発とその現状」

北海道立総合研究機構水産研究本部中央水産試験場資源管理部資源管理グループ研究主任、山口浩志氏からご講演を頂きました。

ご講演は、総務省戦略的情報通信研究開発推進制度(SCOPE)の支援を受けて、公立ほこだて未来大学、東京農業大学、北海道大学等と共同で実施したICTを活用した資源管理に関するシステム開発の事例についてご紹介頂きました。

氏からはまず、各地区で資源の持続的利用を目的とした様々な資源管理の取り組みが行われている中で、「どのくらい資源があり、どのくらい獲ってもよ



写真-1 開会にあたっての大塚代表の挨拶



写真-2 講演中の山口浩志氏

いのか？」ということが最大の課題である等、ICT漁業に関する研究背景についてご説明頂きました。

そして、船上にてGPS及びデータロガーを用いた操業や漁獲量に関する情報集約の手法、地理情報システムによる資源評価方法の構築、さらに、リアルタイムでの資源評価結果を漁業者に発信するためのシステム開発についてご説明頂きました。その中で、操作性が良いタブレットを用いたデジタル操業日誌の役割が大きいとお話し頂いた。最後にwebサイト情報や要約版FAX情報の両方で漁業者に向けて配信し、資源管理に活用していること、課題として情報セキュリティがある旨のお話し頂きました。

(2) 講演2「港湾・海岸構造物の長寿命化について」

北海道大学大学院工学研究院北方圏環境政策工学部門教授、横田弘氏からご講演を頂きました。

ご講演は、「港湾・海岸構造物の維持管理に関する最近の動き」、「ライフサイクルマネジメントの意義」、「点検・診断の効率化と合理化」、「要求性能レベルの向上に対して」の4つの観点からお話し頂きました。

氏からはまず、平成25年は「社会資本メンテナンス元年」と位置づけられ、適切な点検と的確な修繕による各種社会資本の長寿命化計画策定に向けて動き出しており、港湾・海岸構造物も例外ではなく各種委員会等によって、長寿命化計画策定のためのガイドライン等の整備が進められているとの現状についてご説明頂きました。

そして、長寿命化計画のプロセスの中で重要なこととして、初期レベルにおける設計段階でのシナリオと性能確保レベルにおける維持管理段階でのシナリオのカップリングが必要であること、LCC比較においては今後、経済側面のほかに環境側面・社会側面をも評価するサステナビリティ(社会貢献)の考えも必要になるとのお話を頂きました。また、維持管理における実務上の課題として、劣化判定と劣化予測を挙げられ、これまでの研究成果に基づき各種知見についてご説明頂くとともに、新たな考えとしてRBI・RBMについてご紹介いただきました。



写真-3 講演中の横田弘氏



写真-4 熱心に聞き入る参加会員(講演2)



写真-5 参加会員からの熱心な質疑

4. おわりに

両講演ともに当研究委員会にとって重要なテーマであり、非常に興味深く拝聴した。最後にお忙しい中、快くご講演をお引き受け頂いた両講師及び関係各位に心からお礼申し上げます。